

J A 自己改革推進レポートについて

令和3年1月26日
J A 鳥取県中央会

1. J A 自己改革実践状況

(1) J A グループ鳥取の取り組み

鳥取県協同組合連絡協議会の新たな取り組み

鳥取県協同組合連絡協議会（生協・漁協・森連・労金・J Aで構成）は、新たに日本労働者協同組合（ワーカーズコープ）連合会センター事業団山陰開発本部が同協議会に加入する検討を進めている。今後、加入が決定次第、同じ協同組合組織の仲間として一緒に活動していく。

協議会は、毎年国際協同組合デーに合わせて「鳥取県の集い」を開くなど、協同組合運動の発展と更なる前進を誓い合っている。今後、更に協同組合の活動や事業においても連携を深め、発展させていくため同じ協同組合組織に働く者同士が集い協同組合理念を学び、仲間づくりを通じて地域貢献に資する取り組みを構築することが必要となっている。

また、協同組合の活動や理念は「SDG s」との関連が深いものの、その取り組みが「SDG s」を意識されず行われていることが懸念されている。

このような状況を受け、令和3年度から協同組合理念と「SDG s」の取り組みについて各協同組合の職員同士と一緒に学ぶことで関係性を深めるため、「協同組合学習会」を開き、更なる協同組合間連携の強化を目指すこととしている。

(2) J A 鳥取いなばの取り組み

① 倒壊パイプハウス撤去支援

J A 鳥取いなばは1月19日、鳥取農業改良普及所と協力し、12月中旬からの大雪で倒壊した管内のパイプハウスの撤去などの早期復旧に向けた援農隊を派遣した。

この日は、同J Aと普及所の職員の他、市とボランティアの農家など約30人が参加し、鳥取市青谷町でイチゴを栽培する井上さんのパイプハウス2棟の撤去を支援した。



井上さんは「援農支援でたくさんの方が駆けつけてくださり、本当にありがたい。援農支援してくださった皆様の為にも良質なイチゴを作りたい」と感謝し、早期復旧に意欲をみせた。

同J Aでは3月初旬からも県や市と連携し、被害に遭ったハウスなどに援農隊を派遣する。

② 第9回若桜米食味コンテスト

若桜町と若桜支店は12月14日、「第9回若桜米食味コンテスト」を同支店で開いた。「コシヒカリ」や「ひとめぼれ」などの生産者から応募があり、食味値から上位3名を表彰した。

第1位に輝いたのは同町赤松の藤原さんの「コシヒカリ」で、藤原さんは「1位に選ばれ、正直驚いている。来年の励みにし、もっとPRして多くの方に食べて欲しい」と受賞の喜びを話した。

同支店の岡山支店長は「研修を通して、若桜の気候を生かした米作りに取り組んで欲しい」と話した。



③ 介護施設で餅つき大会

鳥取支店は12月21日、支店行動計画の一環として、(株)わかばが運営する介護施設「多機能サポートセンターわかばの家美保」で餅つき大会を開いた。

餅つき大会には、施設の利用者や同支店職員など約30人が参加し、支店からはもち米20キを提供した。杵つきで、白餅、ヨモギ餅、栃餅をつきあげた。

参加者は、同JA職員が餅つきをする姿を見て「よいしょ」と合いの手を入れ、つきたての餅をこねるなど、楽しく過ごした。



④ 環境保全活動金を贈呈

JA鳥取いなばは12月28日、持続可能な開発目標「SDGs」の達成に向けた取り組みの一環として、令和2年7月から有料化されたプラスチック製のレジ袋の収益金の一部を鳥取県森林組合連合会へ贈呈した。

贈呈式では影井組合長が同組合連合会前田会長へ3万円を贈呈した。環境保全活動に役立ててもらうために、来年度以降も継続して寄贈していくことを確認した。

前田会長は「寄贈していただき感謝している。SDGsを協同組合として足並みそろえて取り組んでいきたい」と感謝を述べた。

JA鳥取いなばでは、今後も環境に配慮した商品の拡充や資源の持続可能な調達への取り組みなどを通じて、環境保全活動や社会貢献活動を続けていく。



(3) JA鳥取中央の取り組み

① 女性会が米と手作り雑巾を社会福祉協議会などへ寄付！

JA鳥取中央女性会では「米一握り運動」で集めた米と会員の手作り雑巾を、地域の各施設へ届ける活動を続けている。

雑巾は手縫いやミシンなどを使い、会員一人ひとりが丁寧にタオルを縫い合わせた。

12月7日には、倉吉市の5支部が倉吉市社会福祉協議会へ400枚の雑巾と170kgの米を贈呈した。倉吉市社協の坂本操会長は「毎年雑巾を頂いておりありがたい。給食ボランティアの調理場の清掃用として雑巾を活用させて頂き、米も給食の食材で使わせて頂く」と話した。

令和2年度は、中央管内の13支部において米を10施設へ365kg、雑巾を社会福祉協議会や小中学校など20施設先へ計2,362枚贈呈した。



② 大栄支所共済課がXmasキャンペーンを実施！

大栄支所共済課は12月24日と25日、「JA共済だいえいXmasキャンペーン」を行い、支所に来店した子どもにお菓子の詰め合わせなどをプレゼントし、地域との絆を深めた。

令和2年度は新型コロナウイルスの影響で地域住民とのふれあいの場が大幅に減少したことを受け、当キャンペーンを企画した。

当日は、サンタやトナカイに扮した職員が子どもたちに「メリークリスマス！」と声をかけながらプレゼントを配布した。保護者にはJA共済のチラシを配るなどして情報提供を行った。

同支所の河野支所長は「今後も季節に合わせたイベントで地域の人や子どもとのふれあいを大事にしたい」と話した。



③ 鳥取中央育英高等学校に特産品を贈り激励しました！

JA鳥取中央は12月28日、鳥取県立鳥取中央育英高等学校男子バレーボール部が全日本バレーボール高等学校選手権大会に出場することを受け、地域貢献活動の一環と「鳥取中央」つながりとして同部に特産品を贈呈し激励した。

同部を代表して3年生の神谷さん、宮本さん、田中さんに県産ブランド米「星空舞」10kg、長芋「ねばりっこ」10kg、豚カツ用豚肉10kgを贈った。特産品はそれぞれ、「星空舞のように空高く舞い輝き」、「ねばりっこのごとく粘り強く」、「豚カツを食べて勝利を勝ち取れ」という意味を込めた。

同JAの栗原組合長は「全国大会で勝利していただき少しでも地域が元気になれば」と思っている。鳥取中央の名を全国に広めてほしい」とエールを送った。



(4) J A鳥取西部の取り組み

① 米子南高生がJ Aで職場学習

鳥取県立米子南高等学校の生徒が12月2日、職場学習としてJ A鳥取西部の本所を訪れた。高校生に対し総務部の職員が、仕事のやりがい等について話をした。

職場学習に来た生徒は「J Aの仕事内容が分かった。社会人になるための知識を身に付けていきたい」と話した。



② 青壮年部が小学生に収穫と出荷を教える

12月4日、J A鳥取西部青壮年部名和支部が地元小学生と大山ブロッコリーの収穫体験を行った。

児童らは立派に育ったブロッコリーを次々と収穫し、大きな笑顔を見せていた。



③ 青色申告の正しい知識学び農業経営に役立てて

12月21日、本所で新規就農者らを対象とした青色申告研修会を開いた。

研修会では、就農1年目の生産者や農業研修生らが青色申告の基礎知識を学んだ。また軽減税率や助成金、令和2年度税法改正などについても理解を深めた。



④ いい肉の日プレゼントキャンペーン抽選会を実施

12月21日、農と食のフェスタ事務局主催の「いい肉の日クイズプレゼントキャンペーン」の抽選会を役員室で行った。

当キャンペーンはクイズに答えて鳥取県産和牛をゲットできるというもので、全国各地からの応募があり、応募総数は約1,900件だった。ハガキ・メールともに厳選なる抽選を行い、当選者50名を決定した。



(5) JA全農とっりの取り組み

① 「星空舞ブランド化推進協議会」開催

県産ブランド米「星空舞」の生産力強化、消費拡大を目的に設立されている「星空舞ブランド化推進協議会」について、12月17日に幹事会、12月24日に臨時総会を開催した。

幹事会、臨時総会では令和2年産米の販売概況、令和3年産の販売方針について意見を交わした。コロナ禍の現在、米の消費量が大きく減少している中において、令和3年度に向けた生産方針や産地一丸となった消費拡大並びに播種前契約の拡大についての取り組みを決定した。

② 「JA・県域農機事業一体運営研究会」開催

12月16日、17日に第4回目となる「JA・県域農機事業一体運営研究会」を開催した。農産物の生産に欠かすことのできない農業機械の事業継続の観点から県域での農機事業一体運営について協議を行った。

研究会ではサービスの低下を抑えた拠点の整備や事業規模に合わせた職員の配置や労務管理、さらには組成後の運営方法についても議論が及んだ。

今後は研究会でのまとめを受け、一体運営に向けたマスタープラン作成への参画意思の確認を行い更なる協議を進めていく。

(6) JA鳥取信連の取り組み

「農業メインバンク機能強化にかかる実績検討会」開催

標記検討会を各JAと開催し、令和2年度の振り返りと令和3年度の取り組みについて協議を行った。

令和3年度の取り組みについては、令和2年度に引続きメイン強化先等への訪問活動に次のとおり取り組むこととした。

- ① 営農部門と信用部門の同行訪問を基本とし、1先あたり年2回以上を目標にメイン強化先を訪問し、現状・需要等をヒアリングする。
- ② 金利・保証料ゼロの農業近代化資金など農業資金にかかる施策・取り組みの情報提供を行う。
- ③ 本・支所（店）間および営農部門が連携を図り需資のある農業者へ適時での相談対応を行い、農業融資残高の伸長に向けて取り組む。

また、「JAバンク鳥取中期戦略」の令和3年度の主な取り組みとして次の2点について確認した。

- ① 選定した県域1先以上の農業者の経営課題について、系統内に限らず行政等の系統外関係機関等とも連携して、課題解決に向けたサポートを行い、農業所得の向上に貢献する。
- ② 本会としては、県域農業融資研修会等の開催および営農・経済部門等の他部署向け研修会の開催支援に取り組み、JAの人材育成の支援を行う。

今後とも、営農部門と信用部門の双方が連携し、メイン強化先を中心に農業者をバックアップすることで農業・地域の成長支援を行っていく。

(7) JA 共済連鳥取の取り組み

令和2年度JA自動車共済利用者満足度調査結果(速報値)について

JA自動車共済では、利用者の事故対応サービスに対する評価およびニーズの把握と事故対応サービスの質的向上等を目的として、平成18年度から自動車共済へ共済金請求をされた契約者を対象に利用者満足度調査を実施している。

調査の特徴として、「総合満足度」の総合評価の他に、より契約者の声に耳を傾けられるよう事故処理の工程別に設問を設定し、特に各JAでは「最初の事故連絡時の対応」、「現場急行での対応」などの工程に積極的に取り組み、利用者の皆様に「安心」と「満足度」を提供している。

令和2年度鳥取県は「総合満足度」の目標を96.0%に掲げており、令和2年11月末は、96.4%（全国順位は9位）と全国平均と比較して1.2ポイント高い結果となっている。

また、令和2年度より事故対応リレーションシステムが導入されたことに伴い、Lablet's（携帯用端末）を活用した現場急行を実施し、スムーズな事故受付を積極的に展開している。

◆令和2年度 自動車共済利用者満足度調査結果(速報値)

自動車共済利用者満足度調査

①総合満足度

JA名	令和元年度	令和2年11月末	全国順位
鳥取いなば	95.0%	94.5%	257位/390JA
鳥取中央	95.5%	96.7%	129位/390JA
鳥取西部	96.6%	97.5%	82位/390JA
県合計	95.9%	96.4%	9位/47県
全国平均	94.3%	95.2%	



②工程別満足度

工程	事故受付対応 (JA対応分)		現場急行対応 (JA対応分)	
	令和元年度	令和2年11月	令和元年度	令和2年11月
JA名				
鳥取いなば	98.2% (99.1%)	96.3% (96.7%)	100.0% (100.0%)	96.3% (97.8%)
鳥取中央	94.8% (96.2%)	96.0% (96.3%)	93.0% (94.4%)	98.3% (100.0%)
鳥取西部	96.0% (98.2%)	96.3% (94.8%)	98.1% (100.0%)	100.0% (100.0%)
県合計	96.2% (97.8%)	96.2% (95.8%)	96.6% (97.7%)	98.4% (99.4%)
全国平均	95.1% (96.5%)	95.9% (97.0%)	95.9% (97.6%)	96.6% (98.1%)

アンケート回収月：令和2年4月～令和2年11月 (単位：%、位)

※「事故受付対応」はJAおよび事故受付センターの対応に対する数値で、()内はJA対応分のみ。

※「現場急行対応」はJAおよびアルソックの対応に対する数値で、()内はJA対応分のみ。